

年刊

アタコム100年旅

13

2025年

始動！

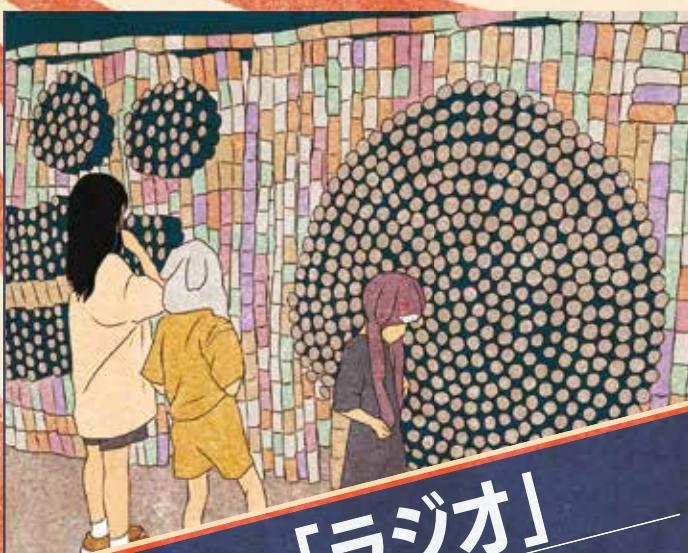
ATACOM 13EST

『未来へ繋ぐ』というテーマかい、過去→現在→未来の繋がりの意味を込めて作成。過去の口々の要素を今年の活動テーマである「ATACOM 13EST」の「13」の文例の中取り入れ、「輝く未来」の花言葉をもつキカラの花で結いた。



一式材料ハ「空缶」。

ATACOM メンバー や 地域の人の協力で、多くの空き缶が集まつた。缶には穴を開け、針金を通して、いくつか連ねたものを百個も作り、さらにそれらを骨組みに連ねていき徐々に巨大なラジオを作っていく。そして、ラジオの後ろには、ガレージ端から端まで続く巨大な缶のカーテンが、その周囲には、缶のカーテンが天から吊り下がれつていて。このカーテンは、ATACOM メンバーだけでなく、地域の子供や達も一緒に作って作成したのだ。一番初回が終われば、子ども達の手元に自分で作り上げたラジオが渡される。地域の祭りで大学生と協力し、自分の手で作ったものが輝きを放ち、それが今、自らの手元に残つている。この出来事が、彼らの夏の思い出の一つと刻まれることを我々は願つ。



ツクリモノ「ラジオ」

2025年ハ、
日本デ、ラジオ放送が始マッテ
100周年——。

才尋ネ者出没！
挑戦者求ム！



8/17・25

アタコム夏合宿

丹波・氷上で開催！



はじめに

「Nの歳は ATACOM BOOK 13 をお手に取っていたとき、ありがとうございました。」

去年一年間、主軸となって活動を引っ張ってくれた先輩方が卒業し、新体制で始まった十三年田。新しく入ってくれた仲間たちと共に過去最高の一年にしようと、13とBの形が似ているNだから、

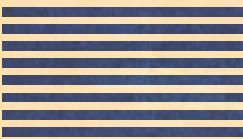
「ATACOM 13EST (BEST)」

を「テーマ」において活動を進めてまいりました。

ソクリエイノ作成から愛宕祭まで、すべてにおいて地域の方々のN協力のもとに成功させたいがございました。またその過程は、地域の方との交流を深め、丹波の文化や歴史や魅力についてさらに知れる機会でもありました。

「Nの貴重で有難い時間を振り返り、BOOKに残します。」

ATACOM Nの BESTな一年を、Nの 1冊で覗き見てみてください。



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



目次

ATACOM とは	1
愛宕祭・地域の造り物	2
一年間のスケジュール	3
議論白熱！審査会	4
2025 年夏、丹波——9 日間の奮闘	
合宿特集	
ツクリモノ製作編	7
日常編	11
愛宕祭編	15
メンバー紹介	23
活動紹介	27
謝辞	29





ATACOM

愛宕祭りに学生が参加する「ことじ」、地域に新しい風と元気を送り込む「う」プロジェクトである。

今年のテーマ

・全ての活動において学生一人ひとりが最大限に取り組み、今までで一番頑張ったと胸を張れる一年にしていきたい。

アタコム ベスト ATACOM 13EST

- ・ATACOMが在るところで丹波をもっと心地良い場所に、もっと好きなまちにしていく。

「彼らの思いをのせて、13年間の「13」と「B」を掛け合わせて命名した。

今年度は新たに多くのメンバーが加入し、総勢40人を超える体制となつた。初めて愛宕祭やATACOMの活動に参加するメンバーも多く、準備や運営では戸惑いや苦労も見られたが、互いに協力し合いながら試行錯誤を重ね、全員で協力しながら、困難を乗り越える力が着実に育まれた一年となつた。



ツクリモノテーマ

毎年多くの人で賑わう愛宕祭りだが、近年は造り物の出展数が減少している。そこで ATACOM のツクリモノを通じ、造り物づくりへの関心を高め、伝統を未来へ繋ぐきっかけとなる作品を目指す。

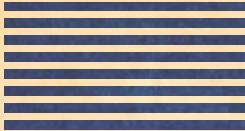


「シヤシロ」

「未来に繋ぐ」というツクリモノテーマから過去→現在→未来のつながりの意味を込めて制作した。



過去のロゴの要素を今年の活動テーマである「ATACOMBEST」の「B」の中を取り入れ、「輝く未来」という意味を持つキララの花で紡いだ。



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

愛宕祭について



愛宕祭とは、毎年八月二十四日に開催され、江戸中期より三百五十年余り続く伝統ある祭りである。

二十三日は、鎮火と五穀豊穣と家内安全を祈願し、伝統の造り物が奉納され、二十四日には夜店と花火大会が開催される。

愛宕祭の中でも、町内会ごとに趣向を凝らし、技術を競い合い製作する「造り物」は、愛宕祭の重要な神事であり、祭りの醍醐味の一つである。造り物は、祝儀物、金物、陶器などの日用品を材料として、人物や建物など世相を表現した作品が、町内数力所で展示される。

造り物は、丹波市観光百選の中で、伝統行事・工芸品部門に認定されている。

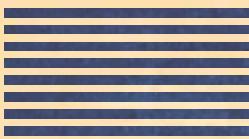
地域の造り物



ラジオが初めて地上波で放送された一九二五年から、今年で百周年を迎えた。そのことを記念して、ATACOMでは「ラジオ百年間の旅」をテーマに、一式材料を空き缶として大きなラジオを作成した。

このように、二〇二五年にちなんだ出来事や行事、人物や建物などの世相を日用品を一式材料として表現する。今年は日本で二〇年振りに万博が開催されたことから、これをテーマとする造り物が多かった。

合計で七つ、そのどれもが目を惹く素敵な作品だった。





一年間のスケジュール



今年も多くの活動を行った。
四月頭に今年度の活動がスタートし、幹部総入れ替えが行われ、新しいメンバーも多くの入ってきてくれた。

七月までの期間では、くじ引きで決まった班メンバーとの顔合わせを行つたうえで、定期的に会議を開き、中間発表に向けたツクリモノ案を考えたいつた。また同時に、愛宕祭での縁日や出し物、遊びを自分たちで考へ、どのようなものだと盛り上がるか、喜んでもらえるかを第一に考え話し合いを重ねていった。七月一日にはツクリモノ案の中間発表があり、他の班の状況と情報を共有する会となつた。またその後に親睦会を開催し、新メンバーとの交流も深めることができた。その後も最終審査会に向けて班ごとに最終調整を行うため会議を続ける。

七月二十八日には丹波市で川裾祭が開催され、地域の方々との交流・出し物をしました。

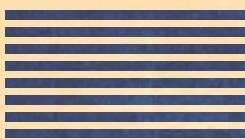
ついに来る最終審査会では、豪華な審査員の方々の前で各班発表を行つた。最終的に最も各得票数の多かつた、「ラジオ」をコンセプトとしたツクリモノの案に決定した。

そしてついに、八泊九日の丹波での泊まり込みツクリモノ製作が合宿が始まつた。毎日炎天下の中ガレージと交流館を行き来する日々は、ATACOMではもう慣れたものだが、初めのメンバーからすると大変な光景だつたかもしれない。来る八月二十四日は快晴となり、今年も最高の祭日の中愛宕祭が開催された。

その後秋学期がスタートし、合宿の反省会を行つた後、このATACOM BOOKの作成に取り掛かっていくというスケジュールとなつた。

その他にも、月一～二回ほどのCHATTA BASEの改修作業を行つたり、丹波市で地域の方々と交流しながらモノをつくるイベントを行つたりと、愛宕祭に関わること以外の活動も行つてきた。

それでは、この一年間の活動で私たちが見た景色を、これから皆様にお届けしていこうと思います。まだ見た景色を、これから



審議論白熱！



8月3日、ひかみ成松交流館で各班がこれまで考えてきたツクリモノの中で、どの提案を実現に向けて進めるかを決める審査会を行った。

江川先生や長町さん、ATACOM のOB,OG の方や、造り物保存会会長など地域の方々にもご参加いただき、各班5分間のプレゼンを行った後、学生を含めた審査員、参加者全員で投票し、今年の作品テーマを決定しました。

審査会を終えた後、メンバー同士の親睦を深めるため、屋外でバーベキューを行った。審査会では作品内容や展示構成について活発に意見が交わされ、緊張感のある時間が続いたが、その空気は会場を移して火起こしが始まる一転した。

炭火の上で焼かれる肉や野菜の香ばしい匂いが広がる中、メンバーは役割や学年の垣根を越えて談笑した。準備から片付けまでを協力して行う姿からは、団体としての結束の強さもうかがうことができた。日が傾くにつれ、焼き網を囲む輪は自然と大きくなり、食材を分け合う光景があちこちで見られた。食事が一段落した後には、夏の風物詩であるスイカ割りも行つた。日隠しをした挑戦者が周囲の声を頼りに一步ずつ進むたび、笑いや歓声が上がり、見守る側も一体となって盛り上がりがつた。見事にスイカが割れると、大きな拍手が沸き起つた。

真剣な議論を経た後のBBQとスイカ割りは、メンバーの心をほぐし、次の制作へ向かう活力を生み出す場となつた。ATACOM は、こうした交流の時間を大切にしながら、今後も団体としての活動を続けていく。

BBQ 開催！





△いわいなおや

△いながきさくら

○大学院2回生

まず初めに一番頼りになるこの2人から！

何を聞いても答えてくれる頼れるこの2人も今年の愛宕祭りが最後になつた。本当にお疲れさまでした。

メンバー紹介

—ここで夏合宿とともに歩んだ精銳たちを紹介しよう



△なかにしりょうじ



△おおやまゆうき



お次はこの5人！
会計やツクリモノなど各役職のトップに立ち、全体を引つ張ってくれた。

彼ら彼女らも最後の愛宕祭りとなつた。

○学部4回生



△いしぎろりさ



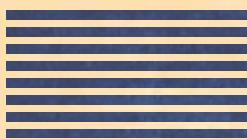
△こばやしゅうあ



△やまもとたいよう

お次はこの5人！
会計やツクリモノなど各役職のトップに立ち、全体を引つ張ってくれた。

彼ら彼女らも最後の愛宕祭りとなつた。



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



△たむらるきあ



続いてこの9人！
上回生と下回生を技術面でもコミュニケーション面
でもつないでくれた橋渡し役。

○学部3回生



△おおがきあゆみ



△とだれんたろう



△わたなべりょう



△おのきょうか



△やぶのしゅくと



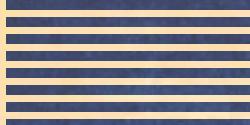
△いいぐさまゆい



△よしながふみや



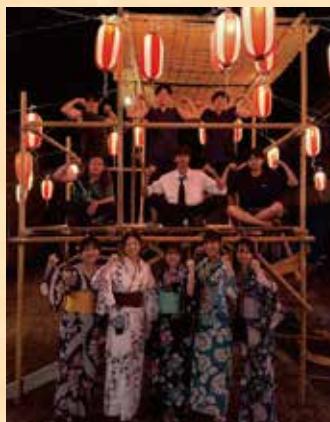
△きむらみさき





○学部2回生

そして次はこの13人だ！
彼らの中には去年から参加していた者も多く、去年の
経験と反省を活かし夏合宿を盛り上げた。



△たかぎせり



△やまむらかいと



△おおしまけいすけ



△かめいもえか



△さとうそういちろう



△いちのつぼゆうと



△おおたにみづほ



△がもうともひろ



△やまさきはる



△はんだかずさ



△かりやなつこ



△さえきひなみ



○学部1回生

最後は、この12人だ！
今年初めての夏合宿で不安や戸惑いもあつた
だろうが、実力以上のものを見せてくれた。



△にしやまとしや

△たむらとくきよ

△まなこりょういち

△なかじまそうたろう



△さわだれいな

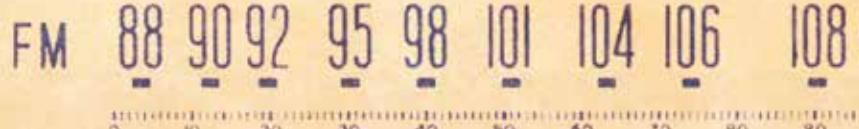
△おおしまさくや

△なかやましおり



△まつしたるな

△かとういおり





日ごろの活動

日ごろの活動では、改修作業のお手伝いに来ていただくなど、多くの場面でご協力をいただいている。また、合宿期間中においても、生活面やツクリモノ製作、企画などの活動面など、さまざまな場面で支えていただいた。

さらに、合宿初日と愛宕祭り一日目には、CHATTABASEにて交流会を実施した。長年丹波に関わってきた学生の卒業に際して感謝を伝えたり、ATACOMリーダーの誕生日を祝ったりするなど、濃厚で楽しい交流の時間となつた。初めて地域の方とお話しするメンバーもあり、非常によい機会となつた。



お祭り出店

地域のお祭りにも参加し、地域交流と、お祭の賑わい発展に努めている。自分たちで作ったスマートボールや、スーパーボールを出店している。



CHATTABASEについて

地域有志の方々、
ATACOM参加学生、佐治
倶楽部のスタッフで地域
の空き家について実践を
通して考えていくチーム。

1、チャレンジの拠点

2、商いの拠点
3、学生の拠点

の三本柱を指針にしながら、地域全体の暮らしの暮らしの環境がよくなることを考えていく。





CHATTA BASE 改修の進捗

昨年より参加メンバーが大幅に増え、また、改修回数も増やしたことでの改修が見る見るうちに進んだ。昨年まで構造体むき出しだったCHATTABASEも残りは、仕上や什器作成のみだ。空き家改修の終わりが見えてくると同時に、この場所の活用方法を具体的に考えている。CHATTAの指針に基づいて、まずは学生が商いにチャレンジした。ゆくゆくは地域の方のチャレンジの場になつてほしいと考えている。

▼

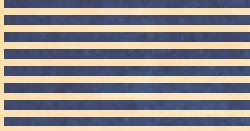
▼

▼

▼

▼

完成間近!?



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



謝辞

八月二十四日 ATACOM一同

関西大学のプロジェクト ATACOM13 に協力いただいた皆様に感謝いたします。
このプロジェクトが丹波及び中央地区のまちづくりに少しづかれて幸いに思います。
今後とも引き続き、暖かい支援の協力をいただきますようにお願い申し上げます。

主催－関西大学 関西大学・丹波市連携事業推進協議会

共催－丹波市役所 成松造り物保存会 愛宕祭り実行委員会 中央地区自治振興会

CAC (中央地区アクティブラーサークル、NPO法人佐治倶楽部)

SPECIAL THANKS

審査委員を引く受けてくださった 江川 名誉教授 長町さん (LEM空間工房)

造り物会場を貸して頂いた 土井 さん

交流館を貸して頂いた 中央地区自治振興会・ひかみ成松交流館の皆さん

交流会を開催して頂いた CAC の皆さん

様々な形で協力して頂いた CHATTA の皆さん

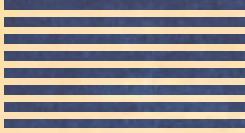
上成松 一富会の皆さん

盆踊りに協力して頂いた 中央自治振興会会长 村上さん 成松連合区会長 足立さん

造り物保存会会長 萩野さん

ラジオ出演等で協力して頂いた 前川さんをはじめとするFM80.5たんばの皆さん

空き缶を提供してくださった皆さん

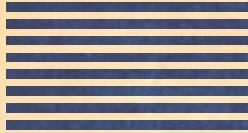


FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

GOONER







アタコムの縁日、今年もオープン！

昨年に引き続き、スマートボールやスリーボールすくい、ボディペイントなど定番の縁日企画を開催。今年はさらに、水あめやハイボール、レモネードの屋台も加わり、ライアンナップがパワーアップした。会場は地域の子どもたちや家族を連れてにぎわいを見せ、終始あたたかな雰囲気に包まれた。また、盆踊りでは、昨年よりもグレードアップしたやぐらを中心に、参加者みんなが輪になつて踊り、夜の祭りをいつそつ盛り上げた。学生たちは地域の人々の屋台もお手伝いしながら、自然に交流の輪を広げ、地元と学生が一緒になつて作る温かい時間が生まれた。



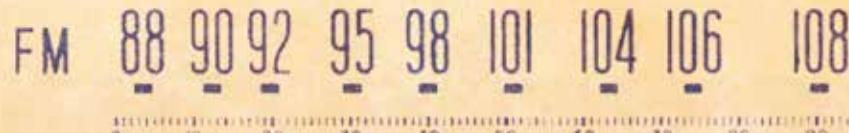
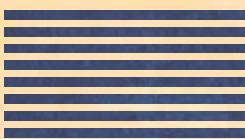
屋台

学生たちが手がけた屋台では、水あめの個数が決まる手作りルーレットが登場。子どもたちはルーレットが回るたびにドキドキしながら、水あめを楽しんでいた。さらに、ハイボールやレモネードの屋台も加わり、訪れた家族連れや地域の人々が学生と交流しながら祭りを満喫した。



アタコムの縁日に加え、地域の方々の屋台もお手伝い。学生たちはお手伝いしながら、訪れた人たちと自然に交流した。

番外編



スマートボール

毎年恒例企画になつてゐるスマートボール。今年も例年と変わらない懐かしい楽しさで、子どもたちの笑顔が絶えない企画となつた。ボールの動きを調査し、得点設定を調整することで、狙う楽しさと運の要素が絶妙に混ざり合う程よい難易度を追及した。友達同士で点数を競い合い、思わず歓声が上がる光景こそ、この企画の醍醐味となつた。

スーパー ボール すくい

大玉と小玉、アヒルの形など変わり種のアイテムを混ぜ込み、狙いどころに個性が生まれ、短い時間でも盛り上がる構成となつた。手を入れたスーパー ボールをぶら下げる子どもたちが行き交い、その鮮やかな色が愛宕祭の景色の一部として溶け込んでいた。



ボディペイント

今年は学生の手作り巨大ガチャガチャに入ったボディペイントが登場。アタコムカラーで彩られたPOP STAR号は訪れた人々の視線を集めた。

POP STAR号

◀製作中の様子

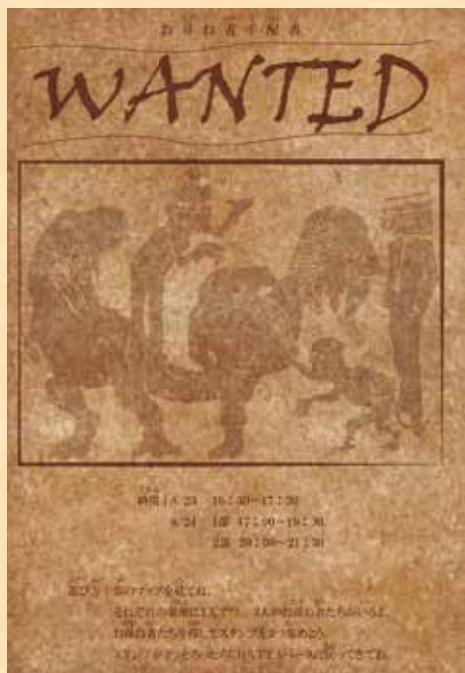




お尋ね者ゲーム

今回初開催の「お尋ね者ゲーム」

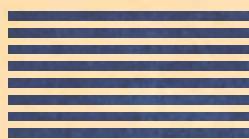
成松の町に潜んでいる六人のお尋ね者たちを探してスタンプを集めるゲームである。地域の子どもたちは、お尋ね者を見つけると走って駆け寄りスタンプを押してもらう。スタンプを三つ集めると CHATTA ベースでお菓子と交換することができる。初開催であったが、子どもたちに大好評企画となった。



お尋ね者紹介



ラジオ泥棒 (山崎)





進化やぐら、登場。

今年は昨年よりさらにグレードアップしたやぐらが登場し、提灯の明かりが祭りの景色をいっそう華やかに彩っていた。やぐらのまわりでは、学生が地域の方々とともに輪になって盆踊りを楽しみ、世代を超えた交流の場となっていた。またやぐら上ではのど自慢大会も行われ、歌声と歓声が絶えず響き、終始にぎやかな雰囲気に包まれていた。

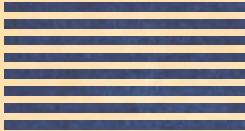
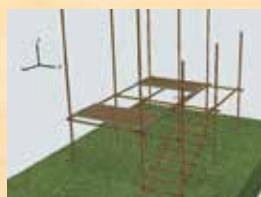
やぐらの組み立て

今年のやぐらは、昨年のものをさらに改良したアップ

データ版。新たに階段が設けられ、使い勝手も見た目もし

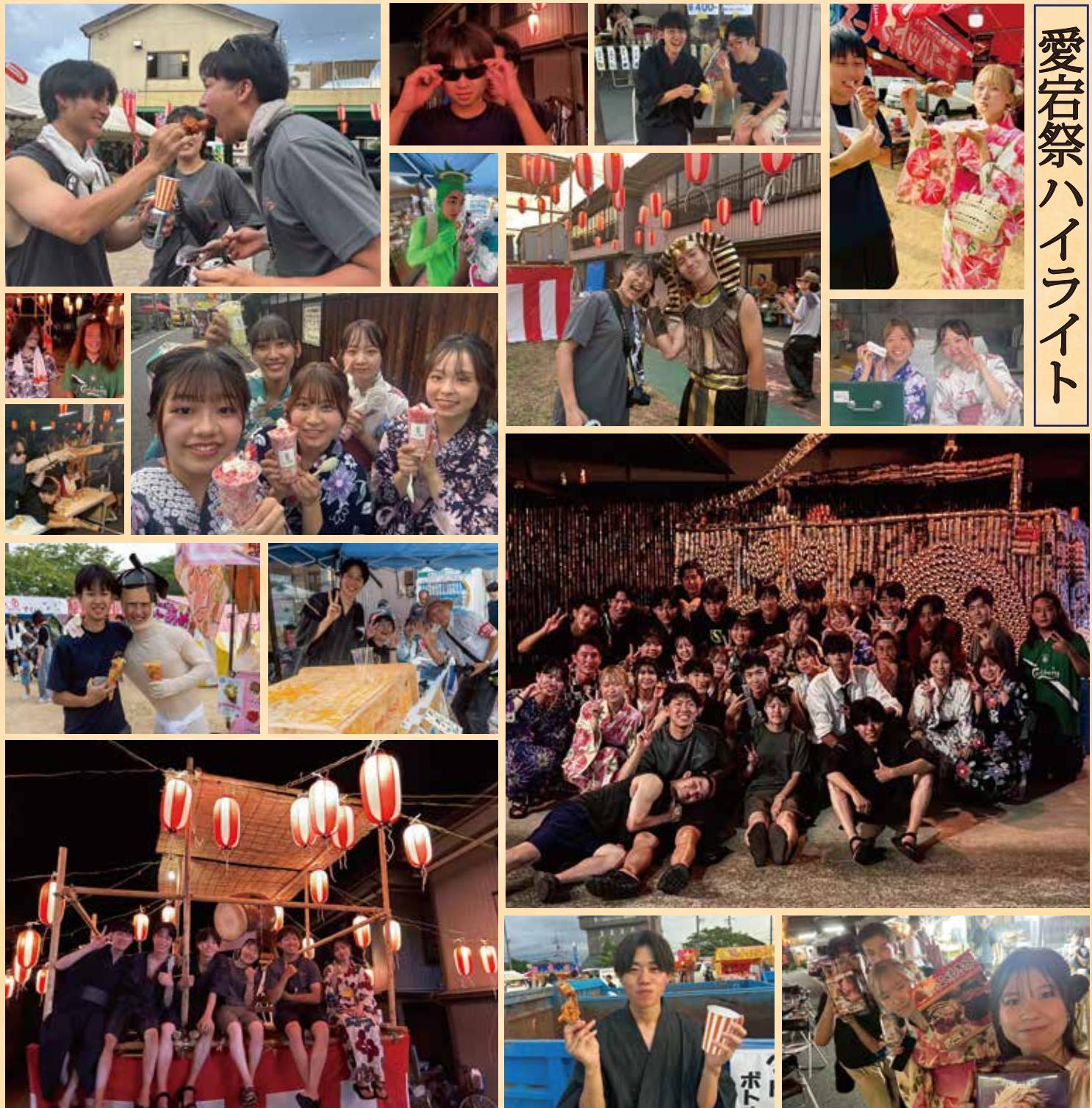
ベルアップした。組み立ては決して楽ではなかったが、やぐらメンバー全員で力を合わせて作業を進めた。

完成したやぐらは、想像以上の仕上がりに。祭りの景色にしっかりと存在感を放つ、今年の自信作となった。

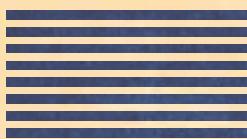


FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

AM 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

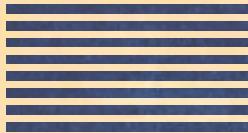


愛宕祭ハイライト



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



完成の景色と私たち

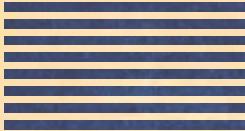


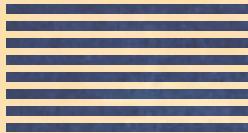
ツクリモノ製作を終えて

愛宕祭へは今年で十三回目の参加となりました。今年もまた、これまでの流れを受け取りながらテーマを決定するところからスタートしました。構想がまとまりきらなかつたり、材料の確保が難航し、ゴールがまったく見えない時もありました。それでも、みんなで手を動かし、試して、やり直して、その繰り返しの中で少しずつ前に進んでいきました。気づけばメンバー同士の会話が増え、制作のスピードも少しずつ上がり、作品の輪郭がすこしずつ立ち上がりつついく過程は、合宿ならではの醍醐味だつたと思います。

制作の途中では、毎年のことながら地域の方々にたくさん協力していただきました。材料を分けてくださったり、差し入れをいだいたり、作業スペースで声をかけてくださったり…。私たちがこの活動を続けていけるのは、そうした地域のあたたかい応援があるからだということを、今年も改めて実感しました。

来年の合宿でも今年の学びと経験を生かしながら、さらに良いものを作れるように頑張りたいです。ここで終わりではなく、また次の一步につながっていくような活動にしていきたいと思っています。





FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100